

「インタラクティブインプラント」をGBRが必要な部位に使用したケース

大阪府 としもりサンフィッシュデンタルクリニック 利森 仁

2016年10月に新商品の「インタラクティブインプラント」が日本で発売された。本システムはKavoKerrグループ(ダナハー社)に属するImplant Direct社から供給される。Implant Direct社は創設わずか10年ほどで世界60か国以上にインプラントを供給する今注目のインプラントメーカーである。今回発売されたシステムは、すでに同社から供給されている「レガシーシリーズ」とは互換性を持たない全く新しいシステムである。

「インタラクティブインプラント」はアバットメントとの連結部にインターナルヘックスコニカルコネクション(CC)を採用しており、ハイトルク(適正埋入トルクは35~70N・cm)での埋入が可能である。今まで直径の小さなインプラントでは埋入時のフィクスチャーの破折を恐れ、埋入トルクに細心の注意をはらっていたが、「インタラクティブインプラント」では最も細い3.2mm径のフィクスチャーも70N・cmでの埋入が可能である。これは術者にとってはたいへん心強いポイントである。一方では、以前ハイトルクでの埋入が可能となるトリプルリードスレッドの際に経験した硬い骨へのスタックが心配であったが、「インタラクティブインプラント」ではその点もしっかり対策がなされている。クワドルプルリードミニスレッド(四条)が埋入時に最もトルクのかかるテーパの最終部分に付与され、骨頂部のストレスを低減している。術者も下顎への埋入を行ったが、適正埋入トルクが70N・cmに引き上げられたこと、クワドルプルリードミニスレッド(四条)の追加で安心して埋入が行えた。もちろんスタックしそうな気配も感じなかった。また先端に行くほどスレッドが深くなるようにデザインされており、不安定な骨への固定を高めている。GBRなどの骨造成を伴う症例にも有用である。また、連結部の密着性がアップしたことでマイクロギャップが少なく感染防御性に優れ、インプラント歯肉移行部の高い組織再現性を実現している。それに加え、プラットフォームシフティングが付与された連結部のデザインにより、インプラント周囲組織を安定して維持することが出来る。術者が実感するのは2次オペ時のヒーリングカラーや印象時のコーピングの装着の簡便さである。連結しやすく

周囲組織を不必要に圧迫することのないデザインが気に入っている。軟組織が安定的に保たれ長期的に高い審美性を約束している。

もう一つの大きな特長はフィクスチャーマウントが設定されていないことである。フィクスチャーにダイレクトにインプラントドライバーを挿入する方式になっている。これにより埋入時の開口量が大幅に軽減できる。同時にフィクスチャーマウント着脱が不要となることでオペ時間も短縮され患者の負担も軽減された。

今回GBRを伴う下顎のケースについて紹介する。

<症例>

患者：初診時50歳、女性

治療の経緯：左下5番を他院で抜歯されインプラント治療希望され来院。抜歯後の搔爬不良によりインプラント埋入予定部位に十分な骨が形成されておらず(図1, 図2)、骨造成を伴うインプラント埋入が必要であった。脆弱な骨への埋入となり、十分な初期固定が得られないことが予想された。



図1 初診時のCT.

図2 初診時のCT.

図3 埋入シミュレーション.

フラップを開けると抜歯窩には肉芽が認められた(図4)。抜歯窩の搔爬後ラウンドバーにてデコルチケーションを行った(図5)。



図4

図5

インタラクティブφ3,7mm, 11.5mmLを埋入し、カバースクリューを装着した。先端部の深いスレッドにより埋入部の骨が脆弱であるにもかかわらず、初期固定は良好であった(図6)。G.B.R.を行い手技を終了した(図7)。



図6

図7

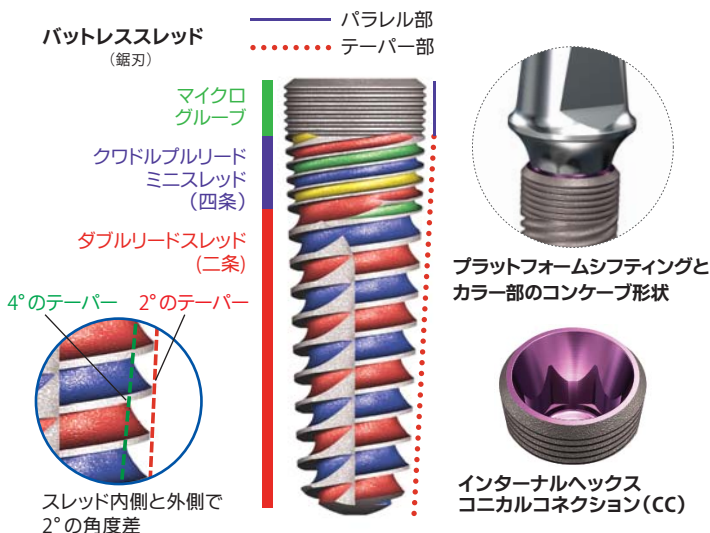


図8 術後のX-ray



インプラント直径：3.2, 3.7, 4.3, 5.0mmD
長さ：6/8/10/11.5/13/16mmL (3.2mmDのみ8~16mmL)
商品構成：インプラント、カバースクリュー、3mmHヒーリングカラー

インタラクティブインプラント デザイン



インタラクティブインプラントはスレッドの内側と外側にテーパ角度で2°の変化を持たせ、先端に行くに従いスレッドを深くすることで骨への固定を高めている。

※インタラクティブ™インプラントは(株)インプラテックスで取り扱っております。お気軽にお問い合わせください。